

令和元年 飯田市教育委員会 12月定例会会議録

令和元年 12月12日（木） 午後3時開会

【出席委員】

教育長	代田 昭久
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	伊藤 昇
教育委員	三浦 弥生
教育委員	上河内 陽子

【出席職員】

教育次長	今村 和男
地域人育成担当参事	青木 純
学校教育課長	桑原 隆
生涯学習・スポーツ課長	北澤 俊規
文化財担当課長	馬場 保之
市公民館副館長	秦野 高彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長	池戸 通徳
歴史研究所副所長	小椋 貴彦
学校教育課長補佐	滝沢 拓洋
健康福祉部子育て支援課長	高山 毅

日程第1 開 会

○教育長（代田昭久） 改めまして皆さんこんにちは。ただいまより令和元年飯田市教育委員会12月定例会を開会したいと思います。

日程第2 会期の決定

○教育長（代田昭久） 日程第2、会期の決定、会期を本日1日とさせていただきたいと思います。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（代田昭久） 日程第3、会議録署名委員の指名、今月の会議録署名委員、伊藤 昇教育委員にお願いしたいと思います。

◇教育委員（伊藤昇） はい。

○教育長（代田昭久） よろしくお願ひいたします。

日程第4 会議録の承認

○教育長（代田昭久） 日程第4、会議録の承認、11月定例会の会議録について配付した本報告と
おりでよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、承認ということでよろしくお願ひします。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（代田昭久） 日程第5、教育長報告事項。

それではお配りしたA4、3枚の紙をごらんいただきたいと思います。

今月、先週になります4・5・6で第4回の議会、代表質問と一般質問がありました。7名の議員、代表質問は3名、一般質問は4名ということで、7名の議員の皆さんから教育委員会に関する質問がありました。その中でも、私が教育長として答弁をした抜粋をさせていただきますので、こんなやりとりをしていることをご承知おき、また、ご意見等あればいただければというふうに思います。

今回の答弁の中でも「研究します」もしくは、しっかりと研究していく、もしくは、検討

まではいかない、失礼しました、「研究していく」というような文言で一步、前に進んだ答弁をしていますので、教育委員会としてそんなふうになっているということも、ご承知おきいただければなというふうに思います。

まず一番初めに、山崎議員より中学校の部活動における質問がありました。大きな質問としては、この今回のやり方の見直しの目的、さらには、ステューデント・ファーストの意味を改めて問うという質問でした。

これ確認なので、この場で委員の皆さんにも改めて、なぜ今回の部活動の見直しをしているのかというところですが、昨年度、部活動の実態を調べてみると、1年間の合計が665時間であったと、これが年間の授業時間が約850時間を考えると、やはりステューデント・ファーストの状況ではないだろうと、子供たちを自主性や成長過程における運動のあり方という点からとしても、子供たちの学習者本位になっていない。ここを見直していきたいというのが大きな目的の1つです。

そういった環境を整えるために、まずは部活動、中学校でやっている部活動の時間を制限して、その一方で部活動の延長として行われる社会体育活動、これを廃止していくというのが大きな方向性です。

それに続いて質問としては、その子供たちの放課後の部活動が1か月、1月になくなるっという発表の中で、部活動の延長して行われる社会体育活動、これがなくなって、今、飯田市では、全市型競技別スポーツスクールというのを1月にスタートさせるというのも聞いてみると、ただ、それがいろんなスポーツの受け皿になり得るのかという質問をいただきました。

まずは、後ほど生涯学習・スポーツ課のほうからの申し込み状況がありますけれども、この、いま委員の皆さんのお手元にお配りした「飯田市中学生のスポーツ活動の充実に向けて」という冊子を、中学校の一・二年生、飯田市の一・二年生全員に配布をしています。その中で、もっとやりたいという子供たちのためにその選択肢をつくろうという、ここまで準備してきたわけですが、ここに関しては教育委員会だけでできることではなくて、各スポーツの競技団体、体育協会の本当にご尽力をいただいてここまでできたなというふうに思っていますので、ここについての感謝の意を表明させていただきながら、ただ8競技にとどまっていますので、例えばですけれども、野球もないわけで、すべての部活動があるわけではないので、今後、充実させていきたいという方向性の発言をさせていただきました。

次ページめくっていただいて、3番目の項は、③に書いてある、これは放課後の部活動がオフになって時間が余っちゃうと、SNSやスマホなどに夢中になってしまうのではないかと

なという意見が出ました。これは議員さんとのやりとりの中で出てきた質問ですけれども、考え方としては確かに今までずっと部活動で時間が拘束された中で時間ができてしまうと、自分の意志で主体的に行動をとれといっても急にはなかなか難しいかもしれません。でも、子供たちが自分の意志で計画したり、主体的な意思で行動したりということは大事なので、学校や家庭・地域と協力して、そんな環境を整えていきたいし支援をしていきたいということをお返答しています。

次は、永井議員から教育のための社会ということで、特に幼・保・小の連携をより一層図るべきではないかという意見をいただいています。

それについては、現状、いま飯田市がどういう形でやっているのかという説明、「保育要録」や「リーフレット」の利活用をしている点、また、校長会の中でも推進委員会を設けたいとか、連携を図っている現状を述べた後、今、その重要さの中で、幼・保・小の連携からさらには高校の地域人教育まで総合的かつ系統的な地域を愛し、誇りに思う人材の検討を進めていく上で、青木参事を文部科学省から迎えて進めていくということで、最後は、方向付けは、議員のおっしゃるとおりだという意味も含めて、幼稚園・保育園と家庭と地域が連携した取り組みを推進していきたいというふうに考えています。

永井議員のほうから、その小学校の学童期の親が心配になっているのは、子育てやしつけに不安を感じているという声が現場を聞くとすごく多いということがあって、もっとそういったしつけを学ぶ機会をつくることができるんじゃないかと、できたらいいんじゃないかという意見もいただきましたので、これに関しては、いま学校ではPTAが中心となっている研修会、どうしてもネットトラブルが優先順事項が高いので、この研修が中心になっているという現状をお伝えし、ただ、しつけや子育ての方向についても、そういったご意見があるのであれば、しっかりと受け止めて健康福祉部の取組と連携しながら、有効な取り組みを進めていきたいというお返答をさせていただいています。

もう1つ最後に、就学援助費の要綱の中に「部活・クラブ活動における道具の購入補助」を追加すべきということがありましたけれども、こちらのほうは、理由はここに書いてあるので後で読んでいただきたいのですが、援助費目の拡大については現状のところは変わらず、現状維持というふうに考えているという姿勢をお伝えしています。

代表質問で、3番目の木下容子議員からのほうからは、大きな質問の内容としては、ひきこもり、これは学童期、小中生というよりは、大人のひきこもりを含めた大きな質問の中で、そのひきこもりがちな中学生に対しては、どんな手だてを打っているのかという質問をいただきました。

実際には、今、この場でも、教育委員会の中でも不登校になっている子供たちに対する報告等ありますけれども、実際に教育委員会の中では、教育支援指導主事や各諸機関と連携しながら取り組んでいる状況をお伝えしています。

最後のところに書きましたけれども、実際こういった丁寧な中3からの高校の接続の成果もあって、高校に進学するときには、本当に多くの子供たちが再び学校、高校生活を送れているということで、昨年実績でいうと85%、不登校であった子供たちの85%が行っているという状況もお伝えして、すべていま完璧に行われているわけではないんですが、そういった取り組みの成果の部分もしっかりとわかっていただきたいのでそんな答弁をしています。

4番目、古川議員から給食についてのご意見をいただきました。給食の時間が短いのではないかと趣旨でまず1問目はいただいております。

もちろん答弁としては、1年生から6年生まで発達段階が大きく違う児童がいる中で、なかなかすべての子供たちに十分ということ、状況ではないかもしれませんが、各学校では必要な給食の時間を確保できているという認識をお伝えしています。

2番目の質問としては、温かい給食へもう少し配慮したほうが良いんじゃないかということで、実際には配膳時間の違いや量の違いによって、学校間の給食の温かさの違いがあるんですね。ですので、そういった工夫をしながら、例えば配送時間をより配膳時間と近いものにするなどの工夫によってできるところはしていきたいというふうに考えています。

また、さらには自校給食を検討する時期に来ているかという質問をいただきましたが、これに関しては、今、現状を継続していきたいと、自校給食のメリットもありますが、今、飯田市としては共同調理場のメリットが大きくあるという考え方を示しております。

木下議員からは、徳康議員のほうからは公会計化、給食費の公会計化について今後検討をし始めるべきではないかという意見をいただいております。

これに対しては、公会計化を導入するに当たっては、給食費の負担を軽減するという側面もあるし、また一方で、体制整備のためには経費もかかるといった課題もあるんですが、導入に向けた研究を始めたいということで前向きな答弁をしています。

塚平議員のほうからは、XR技術の活用についてということで、XR技術というのは、いわゆるVRとかヴァーチャル・リアリティとかARとかの総称なんで、簡単に言えばテクノロジーを使った仮想現実技術みたいなとらえをしていただければいいと思いますが、そういったものを使って、もっと恒川官衙遺跡に活用していったらいいんだろうということです。

それについては、実際にXR技術を使った古墳群が現状あること、さらには我々もしっかり研究していきたい。恒川官衙遺跡の特徴として、正倉院の建物が地下に埋まっているとい

う現状もあるので、有効であるという認識。

さらには2番目の質問として飯田古墳群、先ほど説明がありましたけれども、その活用においても有効であるので、体感できる方策の研究を進めいくということで、これもしっかりと受けて止めて進めていくという趣旨の答弁をしています。

最後は清水議員のほうから、シャルルヴィル・メジール市との交流についての質問がありました。質問というよりは、清水議員も龍江の訪問団の一員になりましたので、一緒にそういった状況を確認しながら方向性を確認したいという趣旨でのご発言だったと、ご意見だったと思います。

実際にシャルルヴィル・メジール市との小学校、訪問したわけですが、こちらの方は小学校の様子は教育長報告事項の中で10月にさせていただいたというふうに思いますが、実際に本当に言語は違うんだけれども、情熱に書いた小学生の文字というのは、お互いに通じるんだなあというふうに思ったという話をさせていただきましたが、実際に今月の頭に、シャルルヴィル・メジール市の教室の様子の映像を龍江小学校で見せています。報告しています。そしたら、やっぱり子供たち、その映像を見て、自分たちの書いたメッセージを本当にフランスの子供たちが見ているというのは、本当にびっくりしてとても印象的に見ていたということを校長先生からの報告もいただきました。

そういった意味では、子供たち同士が文化や国籍を越えて交流するというのは意味があるので進めていきたいんですが、ただフランスということの距離を考えると、行き来をするというのはなかなか難しいので、ICT技術を活用したりして進めていきたいというふうに考えています。

また、2年後めどに飯田OIDE長姫高校のテックレンジャーがシャルルヴィル・メジール市への交流を考えているということなんですが、市としてもかかわりがということで回答しています。実際にテックレンジャーが行くにはまだまだ課題があると思うんですが、そのテックレンジャーによって交流すればいいというよりは、いま飯田市では「LG飯田教育」ローカルとグローバルの一体化した地域・地球、飯田教育に取り組んでおり、そういった大きな教育の流れの中で、このテックレンジャーの訪問を位置づけながらしっかりと活動し、また、その中でもICTの活用というのもしっかりと視野に入れていきたい。そういう回答をさせていただいています。

はい、以上が、議会答弁でのこんなやりとりをしていますのでご承知をいただければと思います。

最後に冒頭の部活動の件ですけれども、後ほど生涯学習・スポーツ課の北澤課長からも申

し込み状況ということでご報告があると思いますが、11月下旬にこの冊子を配布し、先週末、各生徒からの集計をしましたということで、ちょうどできたてのほやほやの人数です。

まずは、ユニークの人数で110名ちょっとです。が申し込んでいただいております。この子たちが、本当にいい機会となるようにしっかりとそういった場をつくっていきたいと思いますし、また、それ以外のそういったスクールに入れなかった子供たちも、しっかりと自主的、主体的に時間を過ごせるような環境、まあ、教頭会では、教頭先生方にそういった指導をぜひしていただきたいということもお伝えしましたが、そんな機会になるといいなというふうに思っています。

新しい取り組みなのでいろんなご意見あるかと思いますが、委員の皆さんのほうから、また、周りのほうで聞く声もいただきながら、つくり上げていきたいなと思いますのでよろしくお願いいたします。

はい、以上で、私のほうから教育長報告とさせていただきます。

それではご質問ご意見等あればお願いします。

(発言する者なし)

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

どうぞ。

◇教育委員（上河内陽子） はい、今年から1月に部活動がないというのが初めて始まると思うので、私もどうなるんだろうというふうに大変心配しております。この中でも、オフになる期間にSNSやスマホなどに夢中になってとしまう生徒が出てしまうのではないかというふうに心配の声が上がったということですが、今の中学生たちが自主的に自分たちで何かをやるうということができるかどうかというところが、非常にどうなるだろうところで注視していかなくてはいけないなというふうに思います。

あと、先ほどの計画の時に、史跡古墳群計画の時に申し上げればよかったんですが、古墳群についての活用についての問い合わせもあったようですけれども、これは、研究の体制というか、その研究したり活用したりするという実質的に研究員の体制というようなものはどうなっているのでしょうか。それからリニアと関わる問題はないのかということがちょっと知りたいです。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

それではどんな体制でこれから進めようとしているのか、さらにはリニアとの関りがあるかというご質問をいただきましたので、馬場課長のほうからお願いします。

◎文化財担当課長（馬場保之） 当課及び美術博物館といたしますか、上郷考古学博物館の学芸員を

中心に研究等を進めてまいるという形になりますけれども、もちろん専門が古墳研究の職員というばかりではないといったような部分もありますので、この保存・活用計画等の策定に関わっていただいた第一人者の先生方のご指導をいただいたり、あるいはこれまでの調査研究の中でご支援をいただきてきた大学関係、そういったところへ、今、今回の史跡専門委員会の委員長は、長野県考古学会の会長の小林正春さんをお願いしておりますので、県の考古学会等とも連携して、そういった調査研究の体制というのはそこできればというふうに考えています。

リニアの関係については、その事業あるいは関連する事業の関係の埋蔵文化財の調査との県教育委員会、それから長野県埋蔵文化財センターと連携をしながら、いま準備を進めているというところです。

◇教育委員（上河内陽子） ありがとうございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

他にありますでしょうか。

はい、よろしいでしょうか。

それでは、また、気づきられたことがありましたら、教育委員報告事項のほうでよろしくお願いたします。

日程第6 議案審議（2件）

○教育長（代田昭久） それでは6番、議案審議に移ります。本日の議案審議は、2件ですがよろしくお願いたします。

議案第55号 学校運営協議会委員の任命について

○教育長（代田昭久） 議案第55号「学校運営協議会委員の任命について」お願いたします。

桑原学校教育課長お願いたします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは、議案第55号「学校運営協議会委員の任命について」でございます。

記載の4校5名につきまして学校運営協議会委員の欠員が生じたため、新たな委員を任命したいものでございます。

内容といたしましては、その右に書いてあります括弧書きの期間、委員会等の改選等によるものという内容でございます。

任期でございますが、前任者の残任期間となりますので令和2年3月31日までというふ

うになります。

以上でございます。よろしくお願いいたします・

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま、議案第 55 号に関する説明がありましたけれども、何かご質問ご意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、それでは、承認ということでお願いいたします。

議案第 56 号 令和元年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第 56 号「令和元年度飯田市就学援助費支援対象者の認定について」をお願いいたします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） はい、それでは、議案第 56 号「令和元年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」でございます。

認定対象者につきましては、別冊でご用意をさせていただいたとおりでございます。それぞれ記載をいたしました認定要件にて認定をいただきますようご提案を申し上げます。

よろしくお願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま、議案第 56 号の説明がありましたけれども、何かご質問ご意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでお願いいたします。

日程第 7 協議事項 日程第 8 陳情審議

○教育長（代田昭久） 本日の協議事項、また本日の陳情審議はございません。

日程第 9 その他

○教育長（代田昭久） 日程第 9 その他。

(1) 教育委員報告事項

○教育長（代田昭久） 教育委員報告事項。

教育委員の皆さんのほうから報告があればお願いいたします。

それでは、北澤教育長職務代理人、お願いします。

◇教育長職務代理人（北澤正光） はい、2点になります。1点は11月17日の日曜日ですが、美術博物館で現代の創造展、第20回という節目の展覧会が行われて、開会式を含め参加させていただきました。

その中で、飯田・下伊那のまさに芸術家と呼ばれる皆さんの175名ほどの作品が美術博物館で展示されました。過去の経過の中で、悩みになっていた出品者が限られてきたというようなことについて、書、洋画、日本画などの7部門の作品を、今年は工夫をされて、今までは部門ごとにまとめて展示だったものを、美博の中に散りばめてといいますか、バランスを考えながら展示するというような画期的な展示方法の工夫をされた展覧会になっていました。

私も第10回からずっと鑑賞させていただいていますが、今年の展示はそういう中でも本当に画期的なものだったと思っています。この展覧会の良さは、飯田・下伊那の芸術を志す皆さんが出品されているというとても身近な感じがするということと、部門が7部門あるということで、非常に多様な作品が展示されているということです。今後とも、飯田・下伊那の文化を盛り上げていくという意味でも継続・発展させて欲しいものの1つだと思って見学させていただきました。

もう1点は、11月29日に上郷公民館で東大の牧野篤先生を中心講師として、公民館関係者や青木参事も出席されていましたが、市民活動にどう参加するかっていうようなテーマで、懇談会形式の学習会に参加しました。皆さんのいろいろなご発言を聞いたり、牧野先生のお話を聞いたりしながら、コミュニティスクールのことを考えていました。

そこに参加されている皆さんは、地域でいろんな活動をされていて、公民館長さん等もいましたので、出された悩みが、地域の活動に参加してくれる方が限られているとか、役員が高齢化してきてなり手がいないとか、後継者がいないというような意見がかなり出て、公民館活動が盛んな飯田市だと言われながら、これからのことを考えると非常に悩みがあるというような話がほとんどだったのです。

そんな中で、さっきコミュニティスクールのことを考えながら参加していたと言ったのは、飯田市の連携・一貫教育やコミュニティスクールも大分軌道に乗ってきたというふうに思い

つつ、学習支援ボランティア等で参加されている方たちのお話を聞くと、学校へ目を向けてくれてはいるが、みんな快く目を向けて協力してくれている人ばかりではないということが最近わかってきました。

その方たちのお話を聞くと、学校も忙しいので無理はないと思う面もあるのですが、ボランティアの皆さんや地域の方が学校のことに参加しても、担任の先生が、地域の方にその活動を丸投げしているといったようなことを話してくださるのです。例えば、車で学校まで機材を運んで行っても、機材を会場まで運び込んで、片づけて、また車に積み込むのに、あまり学校のほうの手伝いがなくて、結局、ボランティアに行った人が自分で設置して、自分でまた持ち帰ってくるみたいなことで、内心「これって何なの」って思いながら帰ってきたってというような話も聞きました。

学校としても、地域の人に来ていただいたこの活動の中で、子供たちが体験を通して学ぶことは何なのかといったようなことを、もうちょっと明確にお示しして、一緒になってやってもらおうというようなことを考えていかないと、結局さっきの牧野先生のお話のことにも通じていくのですが、活動はしているのだけれど学んでいない。牧野先生が盛んにおっしゃっていたのは、今やっている活動をもう一回きちっと見つめ直すことが大事だと。前からやっていたから、また来年もこの活動をやらなければいけないというような思いでやっていると、これからは人も減っていくし、苦しいことが起こるのではないかというようなお話をいただいて、学校のことについてもそうだし、地域の公民館での活動とかにいても、そういう基本的な目線が必要だなということを学ばしていただきました。

すこし発展させたことを言うと、このことは、議会の質問で、中学校の運動部活動のことがありましたが、そこにもかかわるような気がします。

というのは、子供たちに本当に考えさせて、自主性とか主体性を持った活動にするのか、前からこの活動は当たり前のようにある活動だから、その時間の中に子供たちを入れて活動をさせているだけというようなことはないか。考えて活動し、行動するということに行かせることを意識していくことが大切ではないか。ある部分共通しているなっていうか、そんなことを思った次第です。以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

はい、三浦教育委員お願いします。

○教育委員（三浦弥生） はい、お願いします。

11月22日の日に下伊那視聴覚・情報協議研究大会ということで松尾小学校のほうの会場に行かせていただきました。

こちら、副題のように教育メディアの効果的活用を通してということで挙げられていて、タブレットですとか、電子黒板ですとか、というところをどうツールを用いたそんな研究がされておりました。

感じた点ですけれども、授業は3つ、3分野見させていただきました。外国語活動というところでは、タブレット・電子黒板を用いまして、ALTの先生に飯田市の和菓子の紹介であるとか、あと、その場所を案内するといったようなことをタブレットと電子黒板でされておりましたけれども、英語で喋るというような、そういったツールを用いながら、脇にはコミュニケーションをとるためのポイントについての、そういった模造紙が貼られていまして、相槌を打つであるとか、反復してこう答えるだとか、そんなところも書かれていまして、それに沿って英語で子供たちがALTの先生に説明すると、そういったところを見させていただきました。

本当に子供たちがコミュニケーションを英語でとるといったところの楽しさを、小学生がまず楽しさを学ぶというところをお聞きしておりましたけれども、そういった授業展開がされているなというところを強く感じました。

あと、国語の授業では、鳥獣戯画の絵を用いて、それが漫画というものに関係しているかというようなところが前段階であったようでして、それがアニメーションということで、動くことではどうなのかというようなところを、国語のテキストの中から読み取ろうといったものでしたけれども、先生の教材のほうも上手に「絵というものが繋がっていくと、漫画というものが繋がっている、それを動かすことによってアニメーションになるね」、といったような視覚的な興味を引いてから国語で描かれているところはどこだろうというような形で展開ということでした、やはり、これってどうなんだろうっていうような形で問題点が明確になると課題に取り組むところに、ずれがないんだなあというところを感じることができました。

このようにして、こういったタブレットであるとか、電子黒板で使われ方があるのかというようなどころを見させていただきました。

最後、もう1点です。

図画工作というところでは、こちらが通常学級の子供さんと特別支援の子供さんが一緒にユニバーサルデザイン化ということで一緒に授業を受けるといったところで、空間を変える、傘を用いた空間を変えるといった授業でした。

写真を撮ってそれを電子黒板に写して、その変わった様子を見るといったところで、電子黒板・タブレットをいかせておりましたけれども、ユニバーサルデザイン化ということで

の授業の特別支援の子供さん、一般学級の子供さんたちが行うということで、それぞれ学び合える、特別支援の子供さんたちも、見通しを持つといった苦手な分野の通常学級の子供さんと一緒に行うことで、自然とそういう力をつけていくという授業展開、なるほどと思って見させていただいております。

62回を数える大会ということで、それぞれの時代に合わせたこういった教育メディアの活動ということを先生方がずっと研究して授業展開、図られてこられてたんだなということにも、回数を聞いて驚きました。

タブレットや電子黒板、視覚的な効果ということ、ツール、道具として狙うといったところの有効的な活用のあり方を学ばせていただきました。とても先生方が勉強している姿勢もですし、そういうふうに使っていくのかってということで、個人的にも勉強になりました。ありがとうございました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

他にありますか。

はい、上河内教育委員お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） はい、子どもの参観日に行きましたら、授業参観日と同時にPTAと公民館の共催する講演会がありました。

それではLGBT啓発授業ということで、性同一性障害の当事者が語る現状と課題として、松本市にいらっしゃる長岡春奈さんという方のお話を聞きました。

やっぱり学校内にもおそらく何百人に一人という割合で、そういったLGBTに当たるような性別に違和感がある子供たちがいるはずだから、そういったところにぜひ目を向けて欲しいというようなことで啓発をされているということで、そういうことを考えていかなければいけないんだなというふうに感じました。

あと、もう1つ、これはNHKのBS世界のドキュメンタリーという番組の中で、カナダがつくった遊びの科学っていう番組を見ました。

それに大変、驚いたり、びっくりしましたので、簡単にご紹介すると、今、子供たちが外で遊んだり、遊ぶことというのが減っていると同時にメンタルヘルスの問題も増えていると、そこに出てきたのは脳神経科学者、それから幼児教育とか、心理学者とか、動物生態学者とか、いろんな科学者が出てきてそのことについて話しているんですが、いろんな動物も、蜘蛛とか蛸とか象とかそういった生き物すら遊びをしていると。で、遊びがないいろんな壁にぶち当たった時に、例えばマウスでも壁にぶち当たった時に何か次の行動ができなくなっ

てしまうというような弊害が起こっていると、幼児教育の先生などは、やはり子供たち、環境はきちっと用意するんだけど、そこで子供が遊ぶっていう体験を見守って自由に遊ばせる。それはすごく大事なことで、それが子供たちの生きる力のようなものを育むというような内容で、まだまだたくさんの方がいろんなことを科学的なことを言っていました。

もしかしたら、子供の頃に思いっきり遊ぶっていう体験も大げさに言ってしまうと、授業の中に取り入れられてもいいくらい大切なことなんじゃないかなと、そういった子供が自発的に何か遊びを見つけて遊んだり、つくり出したりする力こそが、もしかしたら、その中学生時代になっても何かものを見つけたり、遊びを、遊びとか自分がやりたい方向性を見つめる力の1つになるんじゃないかというような気がいたしました。

ご報告、ご紹介でした。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

◇教育委員（伊藤昇） 古墳のことであるんですが、後で話す生涯学習・スポーツ課報告の中で、古墳の件については触れますか。

○教育長（代田昭久） 議論はもう終わりなので、もしあれば。

◇教育委員（伊藤昇） 分厚い資料が一週間前に宅急便で届きまして、なかなか重くて読めない3日くらいかかったんですけど、私、個人的に一番関心があったのは、大正時代にかなりこういった調査研究の資料が出されて、それがだんだんこう少しずつ引き継がれて1971年に発掘調査が皮切りに始まって、それから1980年に馬の埋葬とか、それから馬具というのがだんだん見つかってきたわけ。そしてシンポジウムが1980年ですか、1994年ですかね、そのシンポジウムというのをきっかけにだんだんと関心が寄せられるようになって、そして1996年、1990年の後半に武器とか武具とかそういったものが見つかって、それが古墳保護の契機になったっていう、この辺のプロセスが個人的には一番、関心があって面白かったなというふうに読ませていただきました。

それで、それが、2005年の古墳の保存活動というのが本格的に始まって、10年続いて、そしてこれがこの古墳の事業というものをここまで持ってきたんじゃないかという、私はこの辺のプロセスが一番個人的には興味があったんで、何か、この辺のところを上手く一般の人たちにもわかるように、もっとわかるようにこの辺のページというものが出てくるといいのかなと思って、そんなふうに思わせていただきました。

恒川遺跡、ことしでしたかね、見させてもらって、恒川遺跡は多くの方は呼びかけも慣れてないですけど、いろいろわかっているんですけど、なかなかこれだけの資料っていうのは全部読めないんですけど、そういうところから入ると、何か入りやすいのかなあと、

素人というか普通の方がですね、ただ一般的にぼんときてもなかなか高岡の森のああいう塚は知ってますけれども、なかなかそういったプロセスがこうわかると、ああ、なるほどな、もっと身近に感じるなあという話だし、それからリニアの話も出てますし、教育長もおっしゃってますけれども、やっぱり馬というものが使われていた時代というのは、今の時代のリニアという交通のね、ああいうのになっているとか、東西の東の国当時の旅にここが使われたというような話とか、非常にそういう話がいつも言われている話ですけども、ほんの一部しか読みませんでしたけれども、そんな感想を持ちました。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

もし、補足等あれば。

◎文化財担当課長（馬場保之） どうしてもその価値を明らかにするとか、いろいろな課題だとか、そういったものを洗い出して、その上で方向性を定めていくってというような作業をしてもらいましたので、どうしても、いきおい難しいというか、多様な内容になってしまいましたけれども、令和2年度におきましては、ぜひ小中学生への学習活動の展開にとか、そういったようなことも考えて取り組んでまいりたいと思っております。

また、ご意見を頂戴できればと思います。よろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

各委員の皆さん、ご報告ありがとうございました。

（2）教育次長報告事項

○教育長（代田昭久） それでは、続きまして「教育次長及び地域人育成担当参事報告事項」あれば、お願いします。

◎教育次長（今村和男） ありません。

◎地域人育成担当参事（青木純） 私もありません。

（3）学校教育課報告事項

○教育長（代田昭久） はい、（3）番「学校教育課報告事項」お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） ございません。

（4）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（代田昭久） 「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」お願いします。

北澤生涯学習・スポーツ課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） それでは、2点報告事項ということでよろしくお願ひします。

最初に資料をめくっていただいて、第14回飯田市キャリア教育推進フォーラムのことにお願いいたします。皆さんのお手元に資料としてチラシを入れさせていただいて、封筒に参加ご案内通知をお渡させていただきましたけれども、早速、お申し込みいただきありがとうございました。出席ということでありがとうございました。

こちらのほう、1月18日土曜日開催ということで鼎文化センターホールで開催します。各校のキャリア教育を通して培われた見方や考え方を発表し、キャリア教育への理解を深め自らの生き方を考える場として開催ということで、各中学校代表、結いジュニアリーダーが1年間を通して学んできたことを発表、そして、会場へ集まった人の意見を交換を行うということで、今年の話題としては「働くこと」「地域と関わること」について、もう1つについては「自分はどう生きていくか」ということを意見交換します。ぜひ、参加をお願いしたいということでご案内であります。

こちらのほうは以上とさせていただきます。

それから、もう1点、全市型競技別スポーツスクールの申し込み状況ということで、冒頭、教育長からお話をいただきましたが、申し込みがまとまりました。

改めて経過ですが、部活のあり方については見直しに合わせて学校スポーツ関係者が中学生期のスポーツ活動について関係者会議を開く中で、大事なものは生徒が主体的にスポーツを選択肢から自分に合ったものを選べる環境が大事ということで、プロスポーツの関係者や体育協会を中心とした競技団体から提案もありました全市型競技別スクールの開催をできる運びになったということです。

部活のオフ期間のちょうど1月、期間限定で開催ということです。内容については書いてありますけれども、申し込みの状況なんですが、実は一番心配していたのは断る事態だけは避けたいということでありました。

その中で、対象は幅広く満遍なく175人という多くの申し込みがありましたけれども、運営できる範囲ということで、競技団体の了解を得ております。特に中学校の部活動がないスキー・スノーボード、空手、硬式テニス、コーディネーショントレーニングと、競技団体の提案によって実施に至って多くの参加をいただきました。

175人の内41の生徒さんが経験なしにチャレンジをしたいということがあります。そんな動きでちょっとあります。

また、部活のほうは何人所属し、そこから何人参加という数字は、今、取りまとめしてい

ます。

現在、定員オーバーしている種目、バレーとバスケットがやはりオーバーしてはいますが、受け入れには問題ないということなので、明日の夜、競技団体と打ち合わせをした後、12月19日に生徒の皆さんに希望決定を送付したいというふうに思います。

今後の取り組みについては参加する生徒の立場から、部活動に所属する生徒にはオフ期間の生活実態や意識をとらえて課題を把握するというところで、最終的にいただいた意見の中では、この中にスポーツスクールに参加した生徒さんのことをアンケートに取ったほうが良いとのご意見もいただきましたが、それは検討していきたいと思います。

一方、実施する体育協会や、あるいは飯田市教育委員会、それから実施主体の競技団体では、実施しての課題をふまえて継続して実施できるように方法や体制、それからさらにはスクールを支えいく指導者の育成についても今後、検討していきたいという状況であります。

以上、ご報告ということでよろしく申し上げます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

◇教育委員（伊藤昇） それについて、いいですか。

○教育長（代田昭久） そうですね、引き続き報告だけ。

後でお願いします。済みません。

○教育長（代田昭久） 続いて、「公民館関係報告事項」。

それじゃ、文化財担当課、お願いします。

◎文化財担当課長（馬場保之） はい、本日お手元に3枚、「伊那谷の自然と文化」学びあい講座のチラシをお配りさせていただきました。入門編ということで、今、やさしい講座を開催してまいりたいということで4回計画をしております。

そのうち1回目と2回目については内容が固まっていますので、今、お配りしてありますが、「動く大地」ということで地質のこと、それから「水引」ということで民俗のほうの講座をしていきたいというふうに考えております。民俗というか文化のほうです。ぜひ、のぞいて見ていただければと思います。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

（5）公民館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「公民館関係報告事項」お願いします。

◎市公民館副館長（秦野高彦） 特にございませぬ。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（6）文化会館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「文化会館関係報告事項」をお願いします。

滝沢学校教育課長補佐、お願いします。

◎学校教育課長補佐（滝沢拓洋） 資料ナンバー3をごらんいただきたいと思います。本日、文化会館の館長、所用で欠席でございますので代わりに私がお説明申し上げます。

『人形劇のまちづくり』の推進に関する取り組み」としまして、12月の活動報告、それから今後ということで記載してございます。特にゴシックで書いてあるものが小中学校に関わるものということでありますので、それぞれお読みいただきたいと思います。

人形劇公演事業、1ですが、特に、年が明けまして1月11日・12日に竹田人形館で「初春を寿ぐ竹田人形館」ということで、それぞれ上演がありますのでご参加をぜひいただきたいとの話がございました。

また、次のページにいただいていただきまして、6番の「人形劇のまち国際化推進事業」の取り組みですが、今週末に伝統人形芝居を通じた交流ということで、南あわじ市との交流に竜峽中学校、それから高陵中学校の人形座が参加をいただけるということになっておりますのでご承知おきいただければと思います。

説明は以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（7）図書館関係報告事業

○教育長（代田昭久） 続いて「図書館関係報告事項」をお願いします。

瀧本中央図書館長、お願いします。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いします。

資料ナンバー4の「よむとす事業の報告及び予定」をごらんください。

報告のところは、ごらんいただければというふうに思います。

予定のところの（3）ですが、「図書館年末年始企画」と書いてありますが、申しわけありません図書館の年始の企画であります。年始に当たりまして、図書館で楽しみながらいろいろな本に出会っていただきたいという企画を毎年行っております。今年も中央図書館、上郷図書館、鼎図書館、それぞれで行います。

中央・上郷図書館では、子供向けに「ねずみ年だよ！ぐりとぐらからの年賀状」というこ

とで、絵本に関するクイズを解いていただいて、本を借りていただくという催し、それから「おたのしみ本」「たまてばこ本」、それぞれ名前が違いますが、包装紙に本を挟んだ状態で中身に何が入っているかわからないという形で本をセットいたしまして借りていただいて、普段、借りない本も借りて楽しんでいただくという企画、それから、鼎図書館では、「雑誌のふろく福袋」という企画を考えております。いつも好評で始めてから数日で、包みがなくなるというような状態であります。

それから1つお知らせですけれども、中央図書館の外壁の工事が始まっておりまして、レンガ積みの壁なんですけれども、赤門側の西側のところの一部分のひび割れが、浮きがあったということでただいま工事を行っています。2月の終わりのころまでの工事という予定で、赤門前が通行できなくなっておりますのでご承知おきください。休館等の予定はありません。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（8）美術博物館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「美術博物館関係報告事項」をお願いします。

池戸美術博物館副館長をお願いします。

◎美術博物館副館長（池戸通徳） お願いします。

お手元に3枚の美術博物館だよりがございますのでごらんください。

まず、水色の12月「びはくにゅーす」でございます。ポイントであります、「びはくにゅーす」のタイトルの下に欄がございます、「12月14日」からというものが4つございます。

1つ目は菱田春草記念室の「春草の名画の秘密3 複製画で探る」それから、コレクション展示は「新時代の造形2 昭和・平成世代の日本画」っていうもの、そして同じくコレクション展示では「須田剋太 ひろがる造形」、そしてもう1つ一番下に、自然トピック展示「石ころからみた長野県の大地」、これそれぞれ12月14日からということです。今週、美博は休館をしておりまして、このすべての展示における準備を行っております。一斉に12月14日開場致しますのでぜひお楽しみをいただければというふうに思います。

あと、細かい情報がぎっしり詰まっておりますので、またごらんください。

2枚目、「プラネタリウム天歩」のご案内です。冬は大変、星座が美しく見える季節であります。12月から「フィール・ジ・アース」という番組、これ葉加瀬太郎というバイオリニストの曲に合わせての番組が放映されております。試写会に臨んだんですけれども、一言で

言いますと、今、スペイン、マドリードで行われているCOP25 気候変動枠組条約を思い浮かばせるような、地球ってこんなに大事なんだっていうことを感じるすごくいい番組になっています。音楽しながら映像も大変素晴らしいものですので、美しい地球という観点ではなく、守らなければならない地球っていう観点でぜひごらんいただければベストです。

最後です。黄色い紙です。「光明寺の仏教文化」ということで、今回、学芸員が12月15日、日曜日の午後、講座を行います。ぜひご来館いただき、また、これにつきましては、現在トピック展示「光明寺の文化財」ということで展示がございます。こちらのほうも見ていただきたいと思いますのでご案内をいたします。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（9）歴史研究所関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「歴史研究所関係報告事項」をお願いします。

小椋歴史研究所副所長、お願いします。

◎歴史研究所副所長（小椋貴彦） それでは資料ナンバー5番とそれから資料ナンバー5の2というのがレジユメの最後についてございます。

資料ナンバー5のほうは10月・11月に行いました歴史研究所の歴研ゼミ・ワークショップの実施状況でございます。

裏面にまいりまして、資料5の2番ですが、こちらのほうは11月の末に行ないました地域史講座「満蒙開拓団送出と引揚者救済」講師に細谷亨立命館大学准教授をお招きしまして開催したものです。報告の概要は、以下に記載してございますので、またごらんをいただきたいと思います。

それから別件で、歴研ニュース103号を添付してございます、こちらは2月8日の「飯田アカデミア2019第90講座」それから裏面のほうでは、今週末12月14日・15日と行います「飯田アカデミア2019第89講座」のご紹介を掲載してございますので、また、ご参加いただければ幸いです。

説明は以上であります。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

学校教育課から歴史研究所までの報告事項に対するご質問等あればお願いします。

それでは、伊藤教育委員をお願いします。

◇教育委員（伊藤昇） 全市型競技別スポーツスクールの先ほどのことですが、ちょっと済みませ

ん聞き逃しているようなことがあるかもしれませんが、申し込み状況こういう数字になったということで、数字はともかくとしてもありがたい話なんです、参加するに当たって生徒も不安だと思うんですよね。というのは、どんな方たちがいるのかとか、あるいはどんな感じでやるのかというのがあるんで、何かこう見学できたりオープンにするような、そういうようなことが、行きたいんだけどちょっと不安があると、「ああ、こうやっているのか」「こういう方たちがこういう講師を呼んでこういう会場でこうしている」というそういう見学をオープンにできるような、そういう場があったらいいのかなというのが1点で。

それから、今度はここに175名が参加されて、今度は体験談ですね。こういう話を聞いたとか、いいものばっかじゃないかもしれませんが、それを聞くことによっては、こんな感じなら私も参加してみようかなとか、そんなような話も出ると思います。

見学オープンと体験談というのを上手く設定してやってくと、次にまた増える環境があるのかなとそんな思いがしました。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） 明日、ちょうど競技団体と打ち合わせをします。ご意見いただいた件、競技団体でも前向きに考えていただけるとと思います。

○教育長（代田昭久） はい、貴重な意見ありがとうございました。

批評するわけではないですけど、ざっくり言うと1割2割の部活に入っている子供たちなので、大多数がやっぱりちょっとちゅうちょしているかなと。なので、ご指摘はありがたいというふうに思いましたのでありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。

（発言するものなし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

報告事項に対する質問等は閉じさせていただきます。

きょう、ここで教育委員会に関係するということで「子育て応援プラン」について子育て支援課のほうから報告をいただきたいというふうに思いますのでよろしくお願いします。

◎健康福祉部子育て支援課長（高山毅） 貴重なお時間をいただきます。飯田市健康福祉部の子育て支援課長の高山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

5分ほどお話を聞いていただけるということでございますので、かいつまんでお手元にお配りの「第二期子育て応援プラン（素案）」をごらんいただければと思います。

ごらんのとおり、今回、教育委員会事務局の中でも議論していただいている各種の計画は、原案ということだったかと思えますけれども、現在の段階は。こちらのほうは、まだ素案の

段階であります。まだ粗削りの状態で、日程的にもなかなか子育て支援課の上半期が幼児教育の無償化のあれで追われておるところもありまして、まだ、ちょっと十二分に議論が成り立っておらんところでもありますけれども、期限もありますし、広く市民の皆様からもご意見をいただきながら熟成させていきたいということもありまして、素案のまま、今のところは外にお見せをしておるとこういうような状況でございます。

教育委員会に関わる部分について、軽く触れてまいりたいと思いますけれども、そもそも、この「子育て応援プラン」というのはどういうものかと申しますと、資料の3ページにございますが、次世代育成支援対策推進法という法律に基づいた子育て支援のまちをどういうふうにつくっていくのかという計画の部分と、それからもう1つは子ども・子育て支援法に基づきますこの市町村の事業計画、この2つがくっついているというか、両方合わせたものになっております。

この「飯田市子ども・子育て支援事業計画」の部分というのは、数値目標を掲げて、例えば、保育園の定員をどういうふうにしていくとか、幼稚園の定員をどういうふうにしていくとか、あるいは、放課後児童クラブのような児童健全育成事業の定員をどういうふうにしていくとか。こういったようなところについては、法に基づきまして数値目標を掲げなければなりませんので、その部分が数値化されているということです。

それから次世代育成のほうの部分については、大体、この法律によって方向性を定めなければならない事項が決まっております、それらについて触れているということになりますが、すべてに数値目標を掲げているものではありません。

それでこの次世代育成支援に関わる部分については、第4章をごらんいただきますので、第4章は49ページからありますけれども、この内、基本目標を6項目用意をいたしまして、その内、基本目標1については、昨今、話題が絶えない児童虐待をどうやって防止していくのかといったネットワーク、支援体制について示してございます。

それから、基本目標2にありますのは、母子保健の分野について、まさに飯田市の場合は妊娠期から途切れないサポート支援体制をしたい、つくり立てていきたいというふうに考えておりました、その部分について記載されております。

その基本目標3の部分、これが54ページにありますが、ここは幼児教育に関わる分野でございます。特に、飯田市で進めていく人づくりを考えていく上で、幼児教育の部分は、これから組み立てていく地域人教育の中の始発点であろうというふうな考え方を持っております、そこについて、まずいま手を付けていけるのは、幼児教育の分野では飯田の地の利を活かした、あるいは地域の絆を活かした自然保育を推進していくというふうなところ、テ

一マではございますけれども、そこから先、幼・保・小連携をどういうふうに進めていくかといったようなところがまとめておるところでございます。

これらについては、それぞれ教育委員会の事務局のほうからごちゃごちゃしております。感謝申し上げます。

それから基本目標6にちょっと飛びますけれども、基本目標6の部分は、地域の皆さんで支え合っていただく子育て・子育ての推進の分野でございます。

ここについても地域の力によって、地域の子は地域で育てようという形で、公民館を中心とした居場所づくりの事業でありますとか、子育てにやさしいまちづくりをハード面・ソフト面の両面からどういうふうに進めていくのかといったことが書いてございます。

次に67ページから第5章、これが「子ども・子育て支援事業計画」に当たる部分でありまして数値目標を掲げております。

71ページから保育・教育、幼児教育に関する中学校区の計画区域ごとの、これから先、向こう5年間にどのくらいの保育園や幼稚園の定員を拡大、もしくは縮小していくのかといった計画値が示されています。

単純に申しますと子供の数そのものは減っていきますので、1号・2号認定というのは、ちょっと児童福祉法の世界の用語ですのでおわかりにくいかと思いますが、言ってみると1号は幼稚園児、3歳以上です。2号は保育園児のやっばり3歳以上です。つまり、お父さん・お母さんが家に昼間おられない家の子供が2号認定、おられる場合は1号認定ということになります。

次の72ページから73ページが保育の必要な子供たちの3歳未満の子供たちです。数字をごらんになっていただきますように、3歳以上の子供たちの保育の提供量というのは十二分に、いま充足しているわけなんですけれども、72・73ページにありますような3歳未満の子供さんの受け皿というのは、正直申し上げますと、ニーズ調査のアンケート調査から推計した人数量に対しては、まだ現在、不足しているという状況になります。

これらに対して、3歳以上の子供さんたちの枠を上手に流用しつつ、中学校区間の、その使い方とか、フレキシブルな利用の仕方を取りましてこれらに対応していこうという計画でございます。

最後に77ページに「放課後児童健全育成事業」でございます。こちらは小学生の子供さんたちの放課後児童の児童クラブの分野でございますけれども、現在、975まで児童クラブの定員を用意していただきましたけれども、その中から、今度はニーズ量をアンケート調査によって調査しますと、来年春からごらんのとおり、全部では1,000を超えるニーズが推計

されております。

これらに対して、小学校区ごとにこういった形でサービスを調整していくというか、整備していくと、こういった計画をちょうだいしております、これをまず素案として今後、市民の皆さんに見ていただきながらご意見をいただいて、その後、微調整をして整えてまいりたいというような考え方でございます。

以上でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま、説明があったとおりですが、まずは素案ということで委員の皆さんにもお示しをさせていただいたところであります。

何かご意見ご質問等あればお願いします。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

それではご意見等あれば、また、締め切りが今年末までというわけではないので、ご一報いただければというふうに思います。

それでは引き続きお願いします。

ありがとうございました。

（10）今後の日程について

○教育長（代田昭久） それでは、今後の日程についてお願いします。

滝沢学校教育課長補佐、お願いします。

◎学校教育課長補佐（滝沢拓洋） きょうの資料の3ページ目をごらんいただきたいとします。

今後の日程につきまして主なものについて記載してございます。

先ほど説明がありましたが、1月12日が成人式ということです。

次の定例会は、1月16日を予定してございますのでお願ひしたいとします。

18日は先ほどありましたが、キャリア教育推進フォーラムがございまして、合わせてお願ひしたいとします。

以上でございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

今後の予定について、何か質問はありますでしょうか。

それでは予定された日程・議案等すべて終わりましたが、その他、ご発言がある方いらっしゃいますでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

日程第10 閉 会

○教育長（代田昭久） それでは日程第10。

以上をもちまして、12月定例会議を閉じさせていただきます。

本日は、どうもありがとうございました。

閉 会 午後4時11分